

昭和三十六年六月二日
三六福通炭業認第二六号

竹藪坑 鑛業施業案

租鑛區々域 (租登第六七号)

共四石決
L
17





昭和 36 年 6 月 7 日

福園 登錄第 1278 号

日省月修
 英同石錄
 入交太藏
 殿

鉱業法第六十三條第二項の規定により 昭和36年4月
27日附申請された日吉 炭鉱竹敷 坑の採掘権に
関する施業案は之を認可する

福岡通商産業局長 橋口 隆



竹
板
坑

飲
樂
施
樂
案

共
同
石
炭
飲
樂
株
式
會
社

日
吉
炭
飲

共
同
石
炭

石
炭
口
部



既開帳に關する施設案認可申請書（合併、変更、追加）
組 組 長

一 區 區 所 在 地 福岡縣嘉穂郡、穂郷町、高樋町、山田市地内

一 區 區 長 福岡縣候補登録第ニ七八号

一 區 區 員 福岡縣候補登録第六一四号

全 部 第 六八七号

一 區 區 名 日 吉 區 長

右開帳においては従来、福澤登部ニ七八号および朝組登録第六一四号地区を合併執行中のごとく、今般福澤登部六八七号を新設したので右地区と合併施設したいので既開帳第六十三条の規定により関係書類および説明書を添えて申請致します。

昭和三十六年 四月二十七日



福岡通商産業局長
川 瀬 楠 治 殿

東京都中央区銀座七丁目五番地の前

福岡通商

福岡通商 共同石炭炭業

右代表取締役 入 交 太 郎

代理人 矢 島 四 郎

租 税 抽 の 内 容

福岡県租税抽登録第六一四号

所在地 福岡県高橋郡、朝霞町、高橋町

租税抽者 共同石炭炭業株式会社

福岡県租税抽登録第五九九号

三井炭山株式会社 山野炭坑

昭和三十三年十一月二十二日租税抽設定登録

自昭和三十三年十一月二十二日

至昭和三十八年十一月二十二日

杉谷五尺層、間三尺層、コイモリ五尺層、下二尺層、土間八尺層

海軍八尺層

一設定面積 四三三四一平方

福岡県組職登録第六八七号

「所在、地 福岡県福岡市、福岡市、高橋町

「組織種別 共同石炭炭産株式会社

「組織区域 福岡県福岡市登録第六八七号

三井炭山株式会社山形炭炭

昭和三十五年十一月十一日組織設置登録

「組織年月日 昭和三十五年十一月十一日

「組織期間 昭和三十八年十一月十二日

「設定炭層 上二尺層

「設定面積 四三三四一七九

昭和三十六年 四月十七日

福岡県炭産権登録第一二七八号

福岡県炭産権登録第六一四号

福岡県炭産権登録第六八七号

組織種別 共同石炭炭産株式会社

組織種別 共同石炭炭産株式会社

右代表取締役 入交 太 郎

炭産代理人 矢 島 四 郎

変更（合併、変更、追加）福岡市

昭和三十四年三月三十日付三四福岡炭産権第三六号により認可を受け得換中の竹炭坑の換炭案を次の理由により変更（合併、変更、追加）します。

△昭和三十五年十一月十一日付にて組織登録第六八七号の組織権設定の認可を受けたに付、新組織と従来の組織および組織の合併、変更、追加換炭を実施する。

△新組織（組織登録第六八七号）の設定炭層である上二尺層を追加換炭する。

△右記上二尺層追加により、片側の設定および採掘方法が一部変更した。

△右記上二尺層追加には既認可の竹炭坑の杉谷本郷、杉谷排気層および炭口を利用する。

「建設部」における地籍調査の経過および調査状況は次の通り

- 竹 坂 坑 (昭和廿二年七月廿四日付三二二番建設部第三〇二号) 昭和廿四年三月 廿日付三四番建設部第三六号 (接中)
- 杉谷二尺坑 (昭和廿一年一月廿二日付二九番建設部第八一七号) 昭和廿四年三月 廿日付三四番建設部第三六号 (接中)
- 一 坑 昭和廿四年七月廿八日付三四番建設部第三二六号 (接中)
- 二 坑 昭和廿六年一月 廿日付二五番建設部二五四号 (接中)
- 昭和廿六年一月 廿日付二五番建設部二五四号 (接中)
- 昭和廿五年十月十七日付三五番建設部三五五号 (接中)
- 昭和廿六年十月 五日付二六番建設部第一八九号 (接中)
- 大谷 坑 昭和廿六年一月 廿日付二五番建設部二五四号 (接中)
- 大谷 坑 昭和廿六年一月 廿日付二五番建設部二五四号 (接中)
- 本多田屋天坑 昭和廿六年五月廿六日付三〇番建設部三五五号 (接中)
- 野崎屋天坑 昭和廿六年五月廿六日付三〇番建設部三五五号 (接中)
- 才田屋天坑 昭和廿一年六月廿七日付三一〇番建設部第一七九号 (接中)

建設部 に関する 建築 案



「建設部」の所在地および関係

- 福岡県高田町、福岡市、高田町、山田町地内
- 二 採掘 (建設) 権の登録番号
- 福岡県高田町二七八号 (面積一八〇八平方メートル)
- 福岡県高田町二七八号 (面積一八〇八平方メートル)
- 全 部 六八七号 (面積四二五平方メートル) 建設部申請区域
- 馬場山および石炭坑の名称
- 日吉炭坑、竹炭坑
- 石 炭 坑

東京府中央区銀座七丁目五番地の一

建設部 共同石炭坑 株式会社

右代表取締役 入 交 太 郎

建設代理人 矢 島 昭 郎



地質の状況

区域の西部にあり、当区域に向つて傾斜し全区域に埋蔵する。

炭層厚さは竹谷、本層間は約六九米、本層、火燒層間は約一五一米である。

に延びる。深上り約一〇米の正階層がある。

主要な炭層の位置、走向、傾斜および厚さ

約三〇度傾斜す。

と環境政策および可採炭量

当申請区域内に於ける、

商申請区域内に設ける、採掘目的以外の用途に限定し、

4. 採炭の方法

採炭は現在進行中の竹藪地から採炭する

全本層および杉谷五尺上層を採掘換装中の石炭坑である。

分、巨船二八一本の位置である。

分、距離三〇四米の位置である。

尺層である。

上層は、當日吉田、竹紙、虎に於て現在編纂中である。

五尺上層(治層杭道)を利用して控設する。

傾軋約一六四四年五月上屋落屋瓦

相煙の支枕
操る方也

掘進して中止する。(掘区間より五米の調査区間まで)

杉谷神社は現在地点（図示点）より、その側の神宮前方面（方位一五度〇分）で横断約一八度の杉谷五尺上層階坑道（厚背門二米×二二米）を水平巨壁で二六四米掘進して中止する。（飯区越より五米の調査炭越まで）

片鱗間隔は原則として、右肩幅は右○片と右一片間隔の六五米、それより三片鱗を距五米毎に設け、現在右一片、右二片、右三片は于該位置で中止し、右○片及右五片の片鱗のみを測進している。

左部は現在設定の左二片より深部は約六五米毎に四片幅を設定する。

右澤部は杉谷本陣の現在地点（図米A点）より西方向、巨礫山二米の位置に右大片を脱け、それより約五〇米毎に二片盤を脱ける。

右側部排気のため、右大片的導立から二〇米の位置より一八五度の方位に切上り距離二〇米を掘進し、上二尺層に穿入させ、穿入後は沿層にて、定向方向に六二米掘進（途中本館

片鱗坑道（三八二×二二米）は最大約四〇〇米、最小約六〇米である。

支柱方法

本脚および掛角御流の支柱は通常鉄筋で脚は本脚とする。片懸杭道は本脚を原則とし必要に応じて鉄梁を使用する。

右部区域の前述長壁式がいちにおける支柱は鉄柱カマペーを使用し、光填を行い、屏および深に高木積、中間に飯桑の帯状光填を行う。

空部区域の従退式長機退避軌における支柱は両軌共鉄柱カッパ―を使用し、充ては無充てたるも両軌とも深に約四米の掘土機充てをなし、上二尺崩軌のみ深に約四米の掘土機充てを與隨す。

昇肉柱形式採炭剪羽の支柱は坑木の荷合神奥木順壁端充填を行う。

經度方法

右側區域(右)片より右五片圖)および右側區域(右六片より右八片圖)の探検は杉谷五尺上層の前進式長盤狀(鉄圓筒ニハ米一五〇米一六〇米)で探掘する。上二尺前後は杉谷五尺上層の探掘時の沈降狀態により前進式長盤狀若しくは昇向柱式(切羽下照)工事按上方法により探掘を與前する。

左部の鋼管は後退式巻掛爪（括弧長約六五センチ）で採掘する。

その方丈は上二尺層を先行し、それより約五〇本の圓錐をおき杉谷五尺上層を道掛けにて展開する。

私の専孔は電気オーガーを使用し、掘破探炭をなす。

土一ヶ部開成おける子堀出炭量	竹藪坑	六〇〇〇〇屯	海軍八尺坑	二〇〇〇〇屯
一本一〇〇〇屯	杉谷二尺坑	四八〇〇〇屯	大谷坑	一三〇〇〇屯
内訳	二四〇〇〇屯		二谷坑	一三〇〇〇屯

六 運搬に関する事項

乾燥其道には一五〇軌条、片端は一〇〇軌条を敷設し、軌間は〇・五米である。國庫は容量〇・六立方メートルの木製貯庫、および〇・五立方メートルの鉄製貯庫を混合して使用する。

坑外主要導揚機（二〇〇馬力革制導揚機）を、坑口より約一〇〇米の位置に設置している
ので、該導揚機より竹葉坑内の上段はすべてこれによつて坑外に運出する。

坑内運送

本坑内方面の運送はすべて前記坑外に設置している二〇〇馬力主要導揚機で、各片鉱の垂立
より坑外に導揚げ、原炭ボケットのチツラまで運搬す。

片鉱運送は通常近距離の場合は手押運搬をなし、長距離は片鉱中區隔の増大に伴ひカイス
ト巻を使用することもある。

切羽運送は部区域の面式長壁採いにおいては一〇馬力二〇馬力のV型チエンコンベ
ヤーを使用して戸樋口まで流し炭車に受ける。

昇降用昇降機はトラフ又はスラを使用し、戸樋口まで人力にて運搬し炭車に積込む
左部区域の傾式長壁運送採掘につける運搬は、杉谷五尺上層の採掘は二〇馬力V型チエンコ
ンベヤーを使用し戸樋口まで流し炭車に受ける上二尺層の採掘はゲートを使用するので採掘
は二〇馬力V型チエンコンベヤーを使用しそれよりゲート運送の二〇馬力V型チエンコン
ベヤーに移しゲート口まで運びゲート口下の炭車に積込む。

坑外運送

坑外に搬出された石炭は原炭ボケットチツアラで積載され水洗機により運送する、精選さ
れた精炭は炭屑機に入れ、貯炭場より送炭車に受け、精炭場まで約九五〇米を二〇馬力エ
ンドレス巻で運搬し機棚より流込みにより炭車積みとする。

坑外運送機

前記坑外主要導揚機によつて搬出された坑内炭は、現在の坑外二馬力主要導揚機で導揚げ運
搬し、竹葉坑場にて傾打式に給送する。

水洗機は、現在の坑外二〇馬力水洗機導揚機で導揚げ運搬し竹葉坑場にて傾打機に搬送する。

水洗機に関する事項

現在の竹葉坑水洗機は傾打式水洗機、電動チツアラで転搬容量五五噸のホッパーに入れ、
ホッパーよりファイダーで五〇噸のジヤムスクリーンにかけ、原炭炭屑に分ける。

原炭は毎時二〇噸のビュンタバンドで精選、炭屑手選し、精炭は毎時一〇噸のホールタヤ
フシヤーで選別しベルトコンベヤーでボケットに送る。

運送上りの原二バケット選は、インバクトクラフシャー（毎時五選）で一五噸以下に選別
し、再洗機（毎時五選）で再洗し、二号洗機（五五〇〇ガリ）を作用する。

ジヤムスクリーン下の五〇噸以下の原料粉は、原炭のクラフシェしたものと一緒に毎時三
〇噸のベルトコンベヤーで水洗機へ送る。水洗はバウム式（毎時五〇選）水洗機により選別
し、トロンメルに入れ、二五噸以上は洗中炭を取り、中炭水切バケットエレベーター（毎時
一〇選）でボケットへ送る。

二五噸以下は洗粉としてビットに入れ、毎時一五噸の水切バケットエレベーターでボケット
へ送る。

洗粉ビットよりの水洗水は水槽に入れ、これより二式浮遊選別機（毎時五選）二台を通じ

微粉を回収する。微粉戻は一斗、馬力油等ポンプで、洗粉バケツト上まで上げ、サイタロンにて脱本微粉に投入する。

微粉回収後のナホはエ、馬力ポンプにて脱山に搬送する。

本脚よりオリバーフロートしたる本は溜溜水として、溜溜本場へ入れ使用する。

水洗後は修時一斗のバケツトエレベーターにて微粉バケツトに入れ、バケツト下でダンプカーに受け前述の通り搬送する。

原炭品位は二〇〇コロリ、精炭品位は六〇〇コロリ、戻分一六五濃炭多量六〇多である

ハ 操業上の危殆予防に關する事項

メ 溜気、排水、扇車および焚火に關する事項

溜気方法は、本脚を八気とし各部内を溜気して排気口より外に排出する。

溜排気口には一〇〇馬力、負圧一ニ〇秒、風量一五〇〇立方メートル毎分のシロフコ扇風機を設置している。

溜気系統は本脚より入流し、左端は各片盤より別別（風道）を経て扇片盤を通じ排気口に連絡する。右端も各片盤より別別（風道）を経て扇片盤に通じ上端坑道にて排気口に連絡して排気口より排出する。

溜気坑道には必要に応じて門扉、目撃、風管、強風等を施設し、脚および片盤盤先の扇風機は扇風機速に由る。

溜排気扇車は、法規則りに行い、溜気吸排機につとめ、瓦斯自然発火等に關する予防をする。

脚 本

竹炭坑の山田川新扇部の現在地の竹炭八尺上層、全本扇の採掘跡（採掘跡は二八八号の溜溜地区域）および今昔のこの区域の採掘終了後は該区域に古溜水が溜水し、貯区域（今次の組設部八八号の上二尺層区域および同一区域の組設部一八八号の杉谷五尺層区域）に溜水するおそれがあるので、三井山野炭業所の指示に従い、指示の如く保安民往を設定した。従つて該保安民往区域は別紙採掘計画図に示す如く、坑道溜溜のみとし、採掘は行わない。保安民往の市の設定計算は、別紙採掘計画（竹炭坑採掘跡による防水保護民往計画）に示す如く、竹炭八尺層採掘跡より十メートルの距離をとり、その地点より六〇度の破面角線をとる杉谷五尺層との交点を求める、その交点と採掘跡との間である。

尚当該区域の採掘終了後は三井区域へ古溜水の流入を防止するため、本脚および排気口の岩石で蓋閉を圖す（別紙採掘計画図に示す附近）に防水ダムを設置する。

竹炭坑の坑内水は平均平時は〇八立方メートル毎分、雨期で最大四立方メートル毎分であることが判明しているため、それに応じ左記の通り主要ダンプを設置している。

脚 名 称	設置場所	容量の 説明	出力	能力	揚水機	台数	備 考
中設脚	杉谷五尺層	エム	170A	115分	115分	1台	
坑底脚	杉谷五尺層	エム	110A	115分	115分	1台	
竹炭本脚	右西片	エム	110A	115分	115分	1台	

その排水方法は竹藪、八尺層区域と本館区域と各別個に排水する。

その排水系統は、本館区域は杉谷本館の坑底周囲により杉谷本館左二目段（杉石）の中段の側面まで六時パイプで排水し、バツタに入れ、それより甲板ボンにより、八時パイプで坑外へ排水す。

竹藪八尺層区域は竹藪本館右六片の竹藪周囲により八時パイプで坑外へ直接排水している、その排水率は海抜約四八米である。

坑の排水は扇田式の場合による。

(四) 照 明

坑内照明は主要坑道および扇田所、特別扇等には防塵検査合格の被服した一〇〇ワの電灯を適宜取付ける。

坑内照明員は、扇田風安全灯を使用する。

(五) 通 風

通風設備、新創ダイナマイトを積積導火線で換換採炭する。

火藥類の運搬取扱い、保管等には換換は有資格者にて之をなすし、坑道に定められた距離を遵守する。

作業の安全その他人に対する危害予防に関する事項
瓦斯検定は保安係が週研瓦斯計により検査し、通風状況、温度、湿度等の検査を常時実施する。

坑道は坑水で侵入し、停風は坑水でつなぎ、天候、側壁の崩壊を防止し、切羽は打柱挿合枠を施し、掘削時は必要に応じて、水櫃、便所完備を施す。

坑内扇田坑道は車道と八道との間隔を適當にとり、車道は常時補修し扇田その他の事故を防止する。

坑内送電線は鐵線ケーブル、キヤブタイヤーケーブルを使用し、保安係員をして監視させ、扇田、扇田事故を防止すると共に、法規に定められた器具を使用し、事故を防止する。

扇田区域内に三井炭山株式会社山野炭礦所の排気網坑が存在するので、之がため保護風柱を別紙図示の如く規則により設ける。

又右部に当該第一坑の古洞（杉谷五尺層）が存在するので之が予防のため五〇米の防水保護風柱を規則により設けて岩洞水を完全に遮断する。

坑外または坑内、扇田の保全に關する事項
坑外に於ける施設は扇田の保護設備を利用し、停風場、坑内外保護器具、送電風工作物および通風物に關しては危険防止、火災予防および防火設備を施し、保安係員に規則の有様を点検させ、扇田保安法による事項を遵守する。

扇田区域内には扇田換氣管、安全の換氣物件は無いが、掘削に上るハ〇度の鉱層と扇田界角部をとると、扇田戸、水田約四六度、扇田二ヶ所、山田川河川六五〇米、扇田一、町道二、光等の扇田物件があるも、扇田物件については、三井山野炭、比嘉炭田、当社日吉炭、

の三省聯合採掘施設があるのではあるが、就中については、その所管および復旧の一切を三井山野
鉱業所が代行し、その復旧費用は三井山野鉱業所と鶴岡の上、その指示に従いその都度三井
山野鉱業所に支払う。

「被害の防止のための施設に關する事項」

竹藪野炭場および焼石のたいね場の位置および保護

竹藪野炭場は炭炭貯炭場を水洗機の下に約二〇〇碼の緩衝コンクリート道を有し、運炭
場下には約二六〇碼の積炭貯炭場を有している。

焼石は現在使用中の便所を有する。照地区は社有地の風野炭場である。その焼石の方炭
は、坑内便は山上に設置している。二馬力便所設備で導引、炭車で運搬し横打式に便所す
る。

水洗便は山上に設置している。二〇馬力便所設備で導引、タンカーで運搬し横打式に便所す
る。(別紙其外図参照)

その施設予定量は約二一五〇〇立方米である。

照地区附近には普通用道路以外には、民家、公共施設等の建築物はない。

従つて被害は起らないが、若しそのおそれのある時は、土留、石垣、護等の防護施設を行い
崩落等の予防をなす。

坑内より排水された坑内水は、坑外にあるコンクリート道りの沈降槽に入れ使用水および水
洗使用水として使用する。

水洗排水の放流については、二馬力浮遊選炭機により選別回収後、チルは汚水洗浄槽に送
り、それより二〇馬力轉動式で竹藪炭場に排水の上放流する。その他は他の沈降
槽に導き浄化の上、排水専用コンクリート戸溝を通じて約一〇〇米離れた才田川に放流す
る。

本炭に対する被害は、当炭においては現在給水設備をなしているから問題には起らないので
施設は別に必要でない。

内その他

採掘区域内の地表は大部分が山林丘陵地帯であるが、採掘による被害手廻り界内には、河
川、橋梁、道路および郵便等があり、該物件に対し被害が予見される(境界内への度)富
田区域の採掘に際して地表陥落を防止するため、採掘跡には覆土を二〇〇以上行う。

九、照地区又は採掘区域の炭炭貯炭場との施設の關係に關する事項

中野区域の右右部にある三井山野炭場所の採炭貯炭場の保護および日吉一坑の排水のための
保護施設を契約により設置する。

但し採炭貯炭場の保護施設内に一部坑道との通過をなす。採掘は勿論ならぬものとす。
隣接区域(河部および右部)および同一区域の下層(本炭貯炭場)は当社経営の目吉炭
であり、又中野区域の地表は目吉炭と合併炭をなすので問題は起らない。

亦後述に當つては、照地区の三井山野炭場所の承認(照炭同業會協付)を得て実施するこ
とにしている。

三井物産
三井物産

当本館区域の採掘所は、本区域と同様に三井山崎鉱業所区域の雨水その他の予
計対象として、当館採掘所に示す位置（本館および御氣町）附近に雨水ダムを構築するこ
ととしている。

但し若賀その他の条件によつて変更を必要とする場合は三井山崎鉱業所と協議の上その指
示通りに施工することとしている。

又本館所有三井山崎の租賦区とも重複するが、租賦区
は当館所有敷区内の租賦区であると共に本館が採掘
している炭層は竹原八尺上層であるので、当館炭層の
採掘長（上二尺層）との炭層間隔は約八・七米であ
るので、採掘上の調整事項はない。

以上

同 意 書

福岡県採掘監督部ニセハ号および福岡県租賦監督部第一四号全長八七号の敷地に係る
昭和三十六年四月二十七日付の日吉炭鉱の炭層調整案の申請に同意致します。

但し所轄官庁の指示により訂正する場合は追新願います。

昭和三十六年四月二十七日

正本對照済

三井山崎株式会社山崎炭鉱所

所長 原 納 又 央

福岡県炭礦株式会社日吉炭礦所

所長 矢 島 西 郎 殿

五本樓印行

日本新成城の印刷工部は、本館と提携する三井山崎印刷所が、本館の代りに印刷を
担当として、所産の印刷工部が、本館（本館および新成城）の代りに印刷するこ
とにしている。

五本楼の印刷工部は、本館と提携する三井山崎印刷所が、本館の代りに印刷を
担当として、所産の印刷工部が、本館（本館および新成城）の代りに印刷するこ
とにしている。

五本樓印行

三井山崎印刷所
大分県大分市
大分県大分市

昭和三十六年 四月二十七日

昭和三十六年四月二十七日 五本樓印行の印刷工部は、本館と提携する三井山崎印刷所が、本館の代りに印刷を
担当として、所産の印刷工部が、本館（本館および新成城）の代りに印刷するこ
とにしている。

昭和三十六年四月二十七日 五本樓印行の印刷工部は、本館と提携する三井山崎印刷所が、本館の代りに印刷を
担当として、所産の印刷工部が、本館（本館および新成城）の代りに印刷するこ
とにしている。

五本樓印行

五本樓印行

五本樓印行



鑛業施業案添附圖

第一葉

租鑛區圖

縮尺五千分一

第二葉

地質圖

五千分一

第三葉

炭層往狀圖

六十分一

第四葉

炭量計算圖

三千分一

第五葉

採掘計畫圖

三千分一



第十二葉內錄一葉

租鑛區圖



調查地點 大同石炭礦東林八
代表調查 入文太
礦務局 天島四

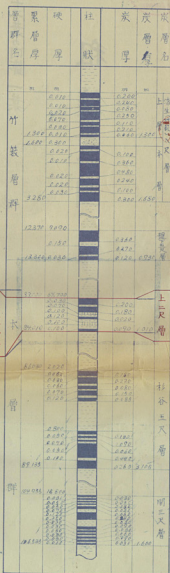
國幣完全
角

鑛床圖

平面圖 縮尺 1:1000

1937
1937.11
1937.11

變層柱狀圖

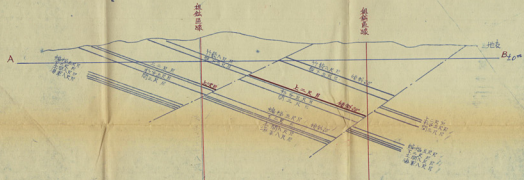


點名	方位	距離	說明
1-1	北	0.20-0.22	0.21
2-1	北	0.10-0.12	0.11
3-1	北	0.10-0.12	0.11
4-1	北	0.10-0.12	0.11
5-1	北	0.10-0.12	0.11
6-1	北	0.10-0.12	0.11
7-1	北	0.10-0.12	0.11
8-1	北	0.10-0.12	0.11
9-1	北	0.10-0.12	0.11
10-1	北	0.10-0.12	0.11



位置標記

A-B 剖面圖 縮尺 1:1000



本圖係由中央鑛務局七百五十四號之
調查報告
共同調查鑛務局
委託繪製
調查地點 大同石炭礦東林八
代表調查 入文太
礦務局 天島四

凡例
1. 地質圖
2. 地質圖
3. 地質圖
4. 地質圖



國 語 学 校

總 務 課 長 大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社
組 織 課 長 大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社
代 表 取 締 大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社
調 査 員 大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社



200001

087
081111
福 岡 県 五 分 一

組 織 區 區 域 圖

福岡縣 嘉穂郡 船津町

大字 大字

嘉穂郡 嘉穂町

面積 四十零百零拾四アール

石炭 附石土

繪 入 者 大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

東 武 郡 中 央 區 別 在 丁 目 五 分 地 邑

組 織 課 長 大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

代 表 取 締 大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社

大 河 石 炭 礦 業 株 式 會 社



第十二葉の内第二葉

地質圖



地質圖

縮尺五千分一

調查者 共同石灰質株式會社
編纂者

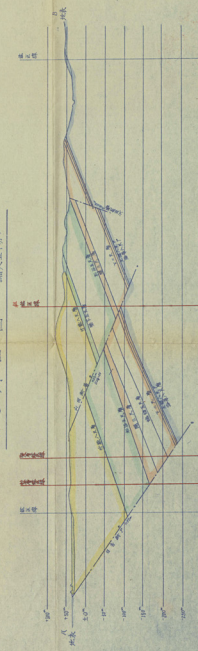
代表取締役 入交 太藏
調査代理人 辰野 四郎

N 90 W
S 70 E

凡	例
●	沖積層 第四紀層
○	上石炭層群
□	石灰質層群
●	赤褐色砂岩 第三紀層
○	赤褐色砂岩 第三紀層
●	大粒灰岩層
△	斷層線
〰	河川
—	道路



A-B 断面圖 縮尺五千分一





第十三卷の第五葉

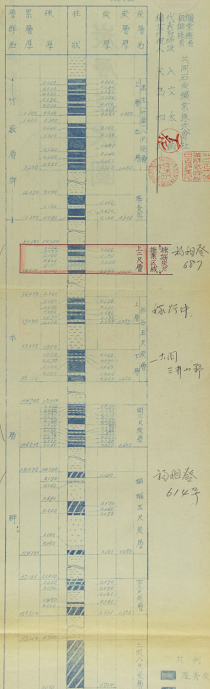
採掘計画図



第十七葉內第三葉

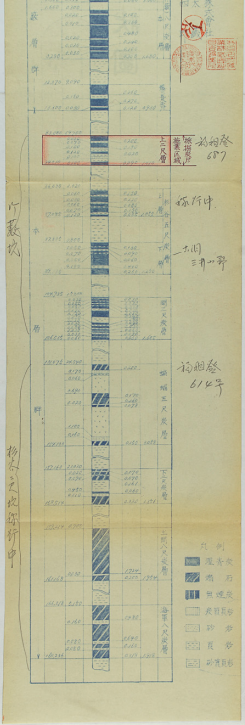
炭層柱狀圖





片數坑

物志之說行中





共同石炭鐵業株式會社

大馬

...

1

施業區域

45

— 5 —

符

11

为相卷
687

錄行中

$$- \frac{1}{2} \frac{d}{dt} \left(\frac{1}{2} \frac{d}{dt} \right)$$

福胆登
614号

	濕青灰
	燭石
	無煙炭
	炭質頁砂
	砂岩
	頁岩
	砂質頁砂

片數塊

楊太史之說

第十二葉内第四葉

炭量計算圖



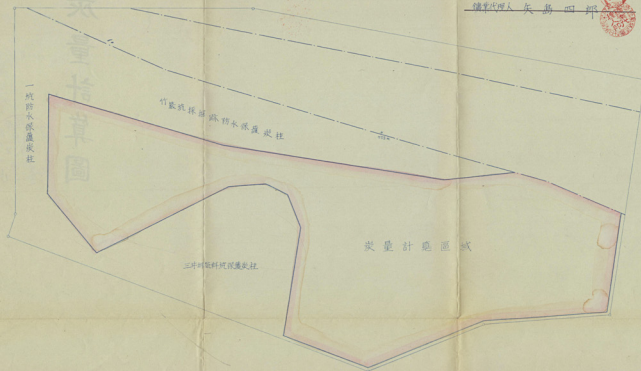
炭量計算図

縮尺三千分の一

調査報告 共同石炭鑛業株式会社
担頭報告

代表取締役 入交 太 蔵

鑛業代理人 矢 島 四 郎



炭 量 計 算 表 (面積はサロメーターによる測定)

石炭坑別	厂 別	炭 丈	比 率	平面積	傾斜	傾斜率	減収率	実 面 積	理論埋藏炭量	安全率	実収率	削減率	実収炭量
竹藪坑	上二尺戸	8090	1.30	179100	19	10576		189000	120,000	50	50		42,000
	計			179100				189000	120,000				42,000

福岡県嘉穂郡稲築町大字才田本谷二二六ノ一

(稲築局区内)

共同石炭

鉦業株式会社

日吉鉦業所

電話 稲築四三〇番
大限 一一番

第十卷内第六卷

坑外圖

縮尺三十分ノ一

第七卷

坑規格圖

第八卷

坑道規格圖

第九卷

通気排水系統圖

縮尺三十分ノ一

第十卷

選炭系統圖

第十一卷

坑道断面圖
坑道断面は、
防水検査灰柱による

縮尺二百分ノ一

第十二卷

坑道断面圖

縮尺三十分ノ一

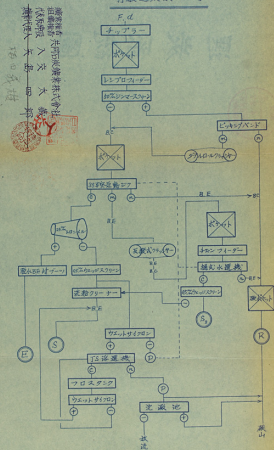
第十三葉內第十葉

選炭系統圖



日吉鑛業所 選炭系統圖

竹葉運炭系統圖



第十三葉の内第九葉

通気排水運搬系統圖



通氣。排水。運搬。系統圖

縮尺三千分の一

鑛集機書 共同石炭鑛業株式會社

代表取牌設入交太

總代理人 久島 四郎

排 水 管	排 氣 方 向	入 貨 方 向	柱 子 入 口 方 向	岩 盤 坑 道	杉 板 大 層 坑 道	竹 炭 大 層 坑 道	粗 鐵 匠 線	美 匠 線
-------------	------------------	------------------	----------------------------	------------------	----------------------------	----------------------------	------------------	-------------

第十二葉の内第十葉

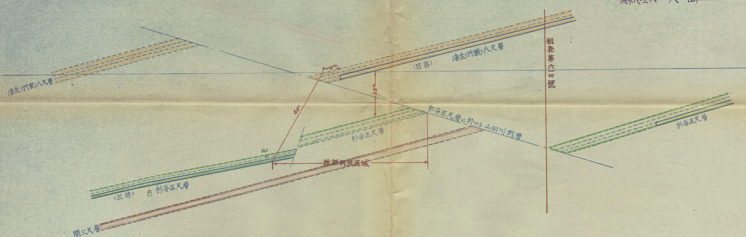
竹綴抗採掘による
防水保護炭柱断面圖



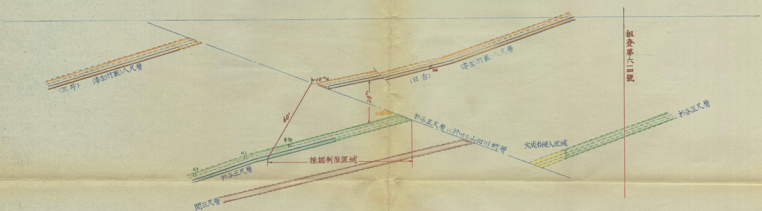
竹箴坑採掘跡による防水保護炭柱断面圖 縮尺千二百分の一

ローイ 断面圖

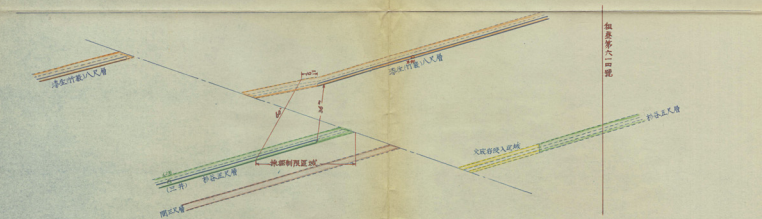
調査地 共明石炭鐵業株式會社
採掘場 入穴式
代表者 矢島 四郎
調査年 昭和 四年



二ノ八 断面圖



八ノ本 断面圖



目	北
採掘跡	
炭層	
砂岩層	

第十二葉內第十葉

坑道断面圖



福岡県嘉穂郡稲築町大字才田本谷二六ノ一

(稲築局区内)

共同石炭

鉱業株式会社

日吉鉱業所

電話

稲築四三〇番
大限一一番

